

よりよく生きようとする思いや願いを深める道徳教育の在り方 —道徳科における「物事を多面的・多角的に考える」ことを視点として—

弘井 一樹

帝京大学大学院教職研究科 スクール・リーダーコース

キーワード：多面的・多角的に考える 道徳授業の特質 道徳的価値の理解

I 研究の目的

1 主題設定の理由

道徳科の目標に新たに示された「物事を多面的・多角的に考える」は、道徳科における重要なキーワードであると考えられるが、学習指導要領解説 特別の教科道徳編には詳しく定義されていない。そのため、指導する際、多くの教員が戸惑いや難しさを感じる要因になっていると考えられる。そこで、本研究において、道徳授業の特質を踏まえた多面的・多角的に考えさせる指導の在り方を提案する意義があると捉えた。

2 研究の目的

よりよく生きようとする思いや願いを深める道徳教育を実現するため、本研究では、基礎研究において、その要である道徳授業の特質を踏まえた学習指導についての理解を深める。その上で授業研究において、道徳授業における「物事を多面的・多角的に考える」有効性に着目し、道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める道徳授業の在り方を追究していくことを目的とする。

II 基礎研究

1 道徳教育及び道徳科の特質への理解

道徳科の、学校教育全体で行われる道徳教育を「補充、深化、統合」する役割と、「道徳的価値を自分との関わりで理解を深める」という特質は不易であると理解した。

2 特質を踏まえた道徳授業論の考察

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めさせるために、読み物教材の登場人物への自我関与を深めさせ、児童の道徳的価値観を登場人物に託して多様な感じ方、考え方として引き出す「教材の『共感的活用』」を生かす意義を理解し、その高い指導効果を生かして指導する必要性を

考察した。

3 道徳性と児童の発達段階

ピアジェやコールバーグの理論を考察し、学年段階が上がるにつれて他の道徳的価値との関わりを広げて考えさせることが有効であることを導いた。

III 研究方法

1 「多面的に考える」「多角的に考える」ことの定義

本研究における「多面的に考える」
事象に関わる一定の道徳的価値を様々な側面から考えること。

本研究における「多角的に考える」
事象に関わる一定の道徳的価値を様々な側面から考えること。

2 道徳的価値を多面的・多角的に考える発問

(1) 道徳的価値を「多面的に考える発問」の在り方

① 価値理解をより深める

道徳的価値を実現する意義やよさについて、視点を変えて考える発問を構成する。

② 人間理解をより深める

道徳的価値を実現する意義やよさ、容易に道徳的価値を実現することができない難しさの両面を考える発問を構成する。

③ 他者理解をより深める

道徳的価値の実現や未達に関わる多様な感じ方、考え方を考えさせる発問を行う。

(2) 道徳的価値を「多角的に考える」発問の在り方

① 価値理解をより深める

ある一定の道徳的価値の実現が、他の道徳的価値の実現に支えられていることを考えさせる

発問を行う。

②人間理解をより深める

ある一定の道徳的価値の実現を図るために必要な他の道徳的価値へと広がりをもたせて考えさせる発問を行う。

③他者理解をより深める

ある一定の道徳的価値の実現や未達の背景となる多様な感じ方、考え方を考えさせる発問を行う。

IV 授業研究

1 研究仮説

児童が道徳的価値に関わる事象を「多面的・多角的に考える」学習を、発達段階を考慮して設定していくことで、児童自身が多様な感じ方、考え方に接するよさを実感しながら、道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める道徳授業へと改善されるであろう。また、学校の教育活動全体で行われる道徳教育の中でも、児童はよりよく生きようとする思いや願いを深めることができるであろう。

2 検証授業に対する評価の観点と方法

(1) 観点

本時で構想した、ねらいとする一定の道徳的価値を多面的・多角的に考える発問や発問構成などの指導方法の工夫は、

- ・児童の実態や発達の段階に応じたものであったか。
- ・道徳的価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）を自分との関わりで深める上で有効であったか。
- ・児童の自己の生き方についての考えを深める上で有効であったか。

(2) 方法

- ・逐語記録の分析・ワークシートの分析
- ・検証授業のビデオ記録の分析・板書の記録の分析
- ・児童の自己評価の考察

(3) 検証授業の経過

高学年 5年	10月28日	[B 相互理解、寛容] 主題名：謙虚な心、広い心をもって 教材名：「ブランコ乗りとピエロ」
中学年 4年	11月4日	[C 公正、公平、社会正義] 主題名：公正、公平に接

		するよさ 教材名：「同じ仲間だから」
低学年 2年	12月2日	[B 感謝] 主題名：心からの「ありがとう」 教材名：「きつねとぶどう」

3 授業研究のまとめ

(1) 逐語記録、ワークシートの分析から捉えた成果

じっくりと書く活動を取り入れ、本時の指導の意図に基づく問い返しを行ったことで、ワークシート記述や発言において、児童一人一人の道徳的価値観に基づく多様な感じ方、考え方が引き出せた。

(2) 児童の自己評価の考察から捉えた成果

「授業後の児童の自己評価」から、学年が上がるにつれて「よくできた」という回答の割合が高くなったことにより、「物事を多面的・多角的に考える」学習は、学年が上がるにつれて多様な感じ方、考え方から学び、自己を見つめる学習効果が高くなることが分かった。

(3) ビデオ記録の分析から捉えた成果

ワークシートの記述を机間指導しながら見取することで、多様な感じ方、考え方を引き出す意図的指名を行うことができた。

(4) 板書記録の分析から捉えた成果

教材の特定場面、条件を外して、道徳的価値の一般化を図る板書を心掛けることで、展開後段での学習を広げたり、深めたりすることにつながった。

V 研究全体のまとめ

道徳教育全体計画を基に、小学校6年間を見通した計画的、発展的な指導を行うとともに、地域・家庭と共に、よりよい道徳教育への改善に向けた「道徳教育マネジメント」を行う。その要である道徳授業において「物事を多面的・多角的に考える」学習を重視することで、児童が自己理解をより深め、自己の生き方についての考えをより深めていけるようになり、児童がよりよく生きようとする思いや願いを深めていく道徳教育へと改善を図ることができる。

VI 主要参考文献

- ・赤堀博行『特別の教科 道徳で大切なこと』東洋館出版社 2017年